

2020年度 ビーチバレーボールルールの取り扱いについて

1 競技参加者の行為 (PARTICIPANTS' CONDUCT) に関する事項

19.1 スポーツマンにふさわしい行為 (SPORTSMANLIKE CONDUCT)

19.1.1 競技参加者は、公式ビーチバレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければならない。

19.1.2 競技参加者は、審判員の決定に対し、スポーツマンらしく反論せず、受け入れなくてはならない。疑問がある場合には、キャプテンを通してのみ説明を求めることができる。(規則 5.1.2.1)

19.1.3 競技参加者は、審判員の決定に影響を与えたり、またはチームの反則を隠したりする行動や態度は避けなければならない。

19.2 フェアプレー (FAIR PLAY)

19.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

(注)

- 1 主審の判定に対するキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 19 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。
- 3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後も審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②一度指導された後にも、再びキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。

【主にステージ 2 に該当するケース (直接イエローカードを出すケース)】

- ①主副審やラインジャッジの判定に対して、執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
 - ②ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。
- ※上記について、威嚇的な態度や行為の内容や程度によって、無作法な行為あるいは侮辱的な行為として判断した場合には、規則 20 に基づき、罰則を適用する。

- 4 プレーイングエリア内で「ガム」を噛んだりすることは許されない。

2 サービス (SERVICE) に関する事項

12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、サーバーがエンドライン後方でボールを保持し、両チームがプレーする用意ができていることを確認した後、サービスを許可する。

(注)

- 1 ラリーの終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、12秒以内のテンポで行う。ラリー間を一定に保つために、選手をコントロールするとともに、ラインや砂の状態、またはボールリトリバーのボール回しの状況を確認することが重要である。
- 2 ラリー終了12秒後に、サーバーがボールを保持していれば、主審はサービス許可のホイッスルをしてよい。サーバーが準備できているかどうか確認する必要はない。ラリー終了後、レシービングチームの準備が12秒よりも早い場合は、サーバーがボールを保持していてもサーバーの準備を待つことができる。また、すべての選手が準備できていれば、12秒より前にホイッスルしてもよい。ただし、レシービングチームが次のプレーの準備ができていない場合は、サービス許可のホイッスルをしてはならない。
- 3 ラリー終了後、サーバーが速やかにサービスゾーンに移動しない場合や、ボールリトリバーからボールを受け取らない場合、また、ボールを保持した状態でサービスゾーンを平らに直す行為等は、遅延行為として注意を与えなければならない。

3 中断 (INTERRUPTIONS) に関する事項

15.5 不当な要求 (IMPROPER REQUESTS)

- 15.5.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。(規則 6.1.3)
- 15.5.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。

(注)

- 1 サービスのホイッスルと同時に、あるいはその後の試合中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしも副審がホイッスルした場合やブザーが鳴った場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の措置を行う。
- 2 キャプテンではない選手がタイムアウトを要求したすぐ後 (同じラリー間)、続いてキャプテンがタイムアウトを要求した場合 (キャプテンが要求せずにそのままタイムアウトとしてベンチに戻ろうとしているときは、審判員からキャプテンにハンドシグナルを出すよう指示してよい)、タイムアウトの要求は許可される。キャプテンではない選手が要求したタイムアウトにキャプテンが同意せずコートに残っている場合等は、不当な要求とみなし、記録用紙に記録する。
(記入例) 「チームA 第1セット 3:7 不当な要求」
- 3 それまでにチームが遅延の罰則を受けていても、不当な要求がチームの最初のものであれば、拒否される。その際、ラリー終了後に不当な要求として記録用紙に記録する。

4 試合の遅延 (GAME DELYS) に関する事項

16.1 遅延行為の種類 (TYPES OF DELAYS)

試合の再開を引き延ばすようなチームの不当な行動は、遅延行為である。主なものは以下のとおり：

- 16.1.1 試合を再開するよう指示された後、中断をさらに引き延ばすこと。
- 16.1.3 試合を遅らせること (通常の試合の状況下で、ラリー終了からサービスのホイッスルまでは、最大限12秒間である)。
- 16.1.4 チームメンバーが試合を遅らせること。

(注)

- 1 選手が、サングラスを拭いたり砂をならしたりする場合、ラリー終了後、直ちに行わなければならない。一度次のポジションに着いた後に行くことは遅延となる。また、2つ以上の中断行為（サングラスを拭いた後、ラインや砂を直す等）も遅延となる。
- 2 TO及びTTOの終了後、コートへ戻る行為が遅い場合、またコートへ戻った後プレーを再開する前に線審のタオルでサングラスを拭いたりする場合も遅延行為となる。
- 3 選手の自然なリアクションか、判定をごまかす行動か、または遅延行為か等を的確に見極める。ライン際のボールインのボールマークを消すリアクションは、判定をごまかす行動だけではないことを理解しなければならない。
審判団は、選手がラインを直すことを要求することがないように、ラリー終了後速やかにラインや砂を直すことを優先し、特に主・副審は毎ラリー終了後にその状態を確認する必要がある。
- 4 副審は、ラリー終了後、まずサーバーの確認、スコアラーの任務の確認を速やかに行うとともに、プレーイングエリアの状態を確認すること。
- 5 主審がキャプテンの質問に答えた後にも、質問を繰り返したり、規則の適用や解釈ではない質問で中断を長引かせるようにした場合も遅延行為となる。

5 公式記録記入法に関する事項

2 トスの後に

2.2 副審から

- a) 最初にサービスをするチーム
- b) それぞれのチームの試合開始時のコートサイド

(注)

- 1 トスに勝ったチームが選択をした後、もう一つのチームが選択を終え、両キャプテンが記録用紙にサインをしている間に、主審・副審でトスの結果を復唱し、両者で間違いがないか確認する。
- 2 両キャプテンが記録用紙にサインをし終えたら、副審がスコアラーにトスの結果を伝える。
- 3 公式練習が終了する前に、スコアラーがトスの結果とサービス順を正しく記入しているか、主審・副審がスコアシートを確認する。
- 4 試合終了後、マッチプロトコールにしたがって審判台前からスコアラーズテーブル前に戻る際、キャプテンがサインし終わるまではスコアラーズテーブルのそばに近寄らず、一定の距離をあけて待つ。必要であれば、審判員がベンチに近寄ってキャプテンに声をかけてよいが、即座にサインをするよう強要すべきではない。

6 メディカルアシスタンスプロトコール (MEDICAL ASSISTANCE PROTOCOLS) に関する事項

17.1 負傷/病気 (INJURY/ILLNESS)

17.1.1 ボールがインプレー中で、もしも重大な事故が起きた場合には、審判員は直ちに試合を止め、医療担当者がコートに入ることを許可しなければならない。ラリーはその後、やり直しとなる。

(注)

- 1 ラリー中に重大な事故が発生し、選手が出血している場合、またはプレーが続行され選手が状態を悪化させる可能性がある場合、審判員はすぐにホイッスルしてプレーを止める必要がある。その後、ラリーはやり直される。
- 2 選手が負傷/病気になった場合、ラリー終了後すぐに、副審は選手が医療支援を必要とするかどうかを確認する必要がある。
- 3 審判員は、メディカルアシスタンスプロトコールを開始する前に、その性質（出血、外傷性負傷、または猛暑等気象条件による病気）および程度（軽度または重度）を判断する必要があるため、負傷/病気に至る状況を把握していなければならない。
- 4 一試合中に同一選手がMTO（出血をとまなう負傷）とRIT（外傷性負傷）の両方を要求し、さらに、他の2つのタイプのRIT（猛暑等またはトイレの使用のいずれか）を要求する可能性があり、これらは使用順序に関係なく許可される。
- 5 さまざまな種類の負傷/病気と医療支援

負傷の種類		程度	措置	許可・計時
メディカルタイムアウト (出血をとまなう負傷) MTO (Blood)		軽度	一遅延なく治療 一医療支援なし	主審により許可
リカバリーインターレフション (RIT)	RIT (Traumatic Injury) 外傷性負傷 プレー中に発生した事象のみ 例：選手が支柱にぶつかる、 選手間の衝突など	重度	一最初に、その時点で利用可能な TO または TTO, セット間を使用 一MTO または RIT/最大5分	許可された時点から計時を開始
	RIT 猛暑等厳しい気象条件による病気 競技委員長が、審判委員長と協議したうえで、公式に厳しい気象条件下であると通知した場合のみ		一最初にその時点で利用可能な TO またはその他の正規の中断を使用 一RIT/最大5分	主審により許可 許可された時点から計時を開始
	RIT トイレの使用 通常の試合中、選手がトイレの使用で遅延した場合のみ		一選手は、ゲームを遅らせない限り、試合中にいつでもトイレを使用する権利がある。 一最初にその時点で利用可能な TO または TTO, セット間を使用 一RIT/最大5分 一選手が戻ったらすぐに試合が再開される。	主審により許可 TO, TTO, セット間の中断中から戻るのが遅れた時点で計時を開始
注：ゲームが遅延されない限り、医療支援はすべての正規およびその他のゲーム中断時に許可される。				

7 猛暑対策に関する事項

選手の健康管理を考慮し、競技委員長または審判委員長の決定により、下記を段階的に適用する。

- (1) ラリー間12秒を15秒に延ばす。(選手には伝えない。)
- (2) コートスイッチごとに、速やかに水分補給することを許可する。(ベンチに座ったり、パートナーと会話したり、サングラスを拭く等はできない。)
- (3) 1, 2セット時には21-21のときに2回目のテクニカルタイムアウト(TTO)を、3セット時には3回目のコートスイッチのときにTTOを行う。